

～農業関連融資～（営農販売企画課・金融推進課）

農業関連融資研修受講・資格取得計画

<営農販売企画課>

営農指導員と融資担当者の連携強化を図り、アグリマイティ資金等の農業資金の情報提供に取り組みます。また、農業関連融資研修会の実施等により農業融資に関する知識を有する職員の育成に取り組みます。

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
農業関連融資 研修受講者	計画	104 人	104 人	104 人	104 人
	実績	81 人	97 人	82 人	—
農業融資 プランナー 資格取得者	計画	62 人	25 人	25 人	25 人
	実績	58 人	15 人	20 人	—
	累計	58 人	73 人	93 人	—

<金融推進課>

TAC3 人、融資専任担当者 19 人をはじめ各支店融資担当者 62 人に農業融資プランナー資格試験の受験で、資格取得者を増員します。

また、TAC、営農指導員、融資専任担当者と各支店融資担当者が連携することで、集落営農組織、担い手・認定農業者に対する相談機能の充実と農業関連資金の拡充を図ります。

～情報共有体制～（企画課）

部門横断会議である企画会議を毎月開催することにより、全部門間での情報共有を行っています。平成 30 年度からの企画会議は、当 J A が実践している自己改革の取り組み内容を共有すべく、営農生活事業に特化した内容で協議します。

③ 旬彩蔵出荷農家の増加と出荷額増大

～旬彩蔵出荷会員の増加～（直売課）

当 J A 管内は市場出荷の難しい小規模・零細農家が多く、このような組合員の農業所得向上を図る手段として、農産物直売所「旬彩蔵」での農産物販売高の増加に取り組んでいます。

具体的には、各営農生活センターの営農指導員が J A 農家管理台帳を活用して、旬彩蔵出荷のメリットを説明する活動を継続することで、会員の増加を図ります。

出荷登録会員へのフォロー策として、新規会員については出荷販売実績を月単位で把握し、その内容に応じて適切な対応策や営農指導を実施しています。

また、既存の旬彩蔵出荷会員には、旬彩蔵農産物カレンダーを作成し、旬彩蔵の時季別・品目別の販売分析を通じた作付計画を提案しており、他にも作物別・品目別の販売実績の検証や出荷農家への全戸訪問を通して、販売高の向上に努めます。

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
販売高	計画	1,887 百万円	2,030 百万円	2,036 百万円	2,037 百万円
	実績	1,910 百万円	1,937 百万円	1,953 百万円	—
会員数	計画	2,324 人	2,457 人	2,484 人	2,440 人
	実績	2,257 人	2,284 人	2,320 人	—



黒大豆の栽培指導



水菜栽培講習会

～栽培講習会による栽培技術普及～（営農販売企画課、営農支援課、直売課）

旬彩蔵出荷会員の育成支援を図るため、各地域（営農生活センター・旬彩蔵各店舗・野菜苗生産基地）で出荷会員を対象とした各種作物の栽培講習会を開催しています。この講習会を通して旬彩蔵に出荷する農産物の品質向上を図るとともに、新規作物の推進や端境期の出荷対策に取り組んでいます。今後は生産コスト低減に向けた各種講習会の開催にも取り組みます。

当 J A で特産化を目指している「プチヴェール」「ロマネスコ」の栽培講習会を開催し、当年度のプチヴェールの栽培本数は 4,496 本（前年対比 77%）、ロマネスコの栽培枚数は 793 トレー（前年対比 103%）となりました。（平成 30 年 3 月末）

栽培講習会開催状況

（開催回数、出席者数）

地域	講習会内容	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
姫路	夏野菜、秋冬野菜、水稻等	46 会場 / 771 人	53 会場 / 980 人	43 会場 / 847 人
神飾	夏野菜、秋冬野菜、水稻等	39 会場 / 547 人	6 会場 / 144 人	10 会場 / 150 人
揖保	小麦・大豆、水稻穂肥、野菜等	139 会場 / 1,393 人	125 会場 / 938 人	80 会場 / 1,291 人
赤佐	水稻穂肥、野菜等	69 会場 / 1,291 人	60 会場 / 1,193 人	19 会場 / 1,125 人
旬彩蔵	小菊、プチヴェール、ロマネスコ	6 会場 / 96 人	6 会場 / 141 人	4 会場 / 61 人